

文教委員会報告資料

令和7年3月13日

報告事項件名	頁
(教育指導部)	
(1) 教育委員会への新たな専門職配置について……………	2
(2) 公立学校情報機器整備事業に係る各種計画の策定について……………	5
(3) Chromebook用SIMカード貸与基準の新設について……………	8
(4) 令和7年度実用英語技能検定受験支援事業の拡充について……………	10
(5) 英語教育グランドデザイン指標の見直しについて……………	12
(6) 令和7年度学習者用デジタル教科書の使用方針について……………	14
(7) 図書館を使った調べる学習コンクール全国コンクールの結果について……………	15
(8) 令和7年度部活動地域移行モデル事業実証実験の検討状況について……………	17
(9) 令和8年度「ペアレントトレーニング」事業改善について……………	18
(10) 東京都バーチャル・ラーニング・プラットフォーム(VLP)事業の実施状況について…	20
(11) 不登校に関する児童・生徒、保護者アンケートの概要(案)について……………	22
(12) 足立区フリースクール等利用料助成金の開始について(案)……………	24
(学校運営部)	
(13) 【追加】宮城小学校施設更新に伴う設計等業務委託の公募型プロポーザルによる事業者の特定結果について…	25
(14) 社会人に向けた返済支援助成制度(案)について……………	28
(15) 足立区学校保健統計書(令和5年度実績)の概要について……………	30
(16) 令和8年度あだち放課後子ども教室の民間事業者への委託の検討状況について…	32
(17) 令和7年度公益財団法人足立区生涯学習振興公社の事業計画及び収支予算について…	別添
(子ども家庭部)	
なし	

(教 育 委 員 会)

文教委員会報告資料

令和7年3月13日

件名	教育委員会への新たな専門職配置について
所管部課名	教育指導部 <u>教育政策課</u> 学力定着推進課
内容	<p>区立小・中学校における学力施策の実行力強化を目的として、教育委員会に新たな専門非常勤の職を新設する。</p> <p>1 設置の趣旨</p> <p>(1) 背景</p> <p>当区のボトルネック的課題の一つである「学力」対策については、これまで統一したメソッドと校長会との連携により一定の成果をあげてきた。しかしながら、年月を経るとともに校長会の中核を担ってきた人材が入れ替わりつつある中で、これまでの取組を継承し、ブラッシュアップしながらいっそう推進していくことが必要となっている。</p> <p>(2) 職の新設</p> <p>学力向上施策の推進に関し、専門的な見地から教育長及び教育指導部長を補佐する特別職としての専門非常勤の職を新設する。</p> <p>(3) 役割</p> <p>ア 各学校を訪問し、全校一律ではなく各校の実態に応じた学力向上施策の効果的活用につながる助言・提案を行う。</p> <p>イ 助言にあたっては、各校における取組等のよさを認め、伸ばせるものとなるように助言・提案を行うことで学校・教職員のモチベーション向上にも繋げていく。</p>

2 現状の課題と対応策

現状の課題	対応策
① 教育委員会と学校との間で学力向上施策の目的や意義に関するこれまでの共通理解が薄まりつつある。	① 教育施策や学校現場の課題に精通した人材が専門的な立場から学校に対して助言を行う。
② 現場支援にあたり、現状の職員体制（校長0Bの会計年度任用職員が中心）では指導力を発揮しにくい。	② 「教育長及び教育指導部長の補佐」という明確な立場から助言にあたる。

3 新設する職

(1) 職名

学力向上専門監

(2) 身分

教育委員会が任用する特別職非常勤職員

(3) 候補者

当区の施策を理解しており、足立区立学校において学力向上に注力してきた校長経験を有する者

(4) 位置付け

教育委員会事務局の組織機構からは独立して、教育行政のアドバイザー及び補佐的役割を担う。

(5) 業務内容

- ① 教育施策全般に関する教育長及び教育指導部長への助言・提言
- ② 各校の実態に応じた学力向上施策その他学校経営上の諸課題等教育施策に関する学校への助言・提言

4 勤務形態

(1) 勤務日数

週4日程度

(2) 勤務時間

1日7時間30分程度

(3) 報酬

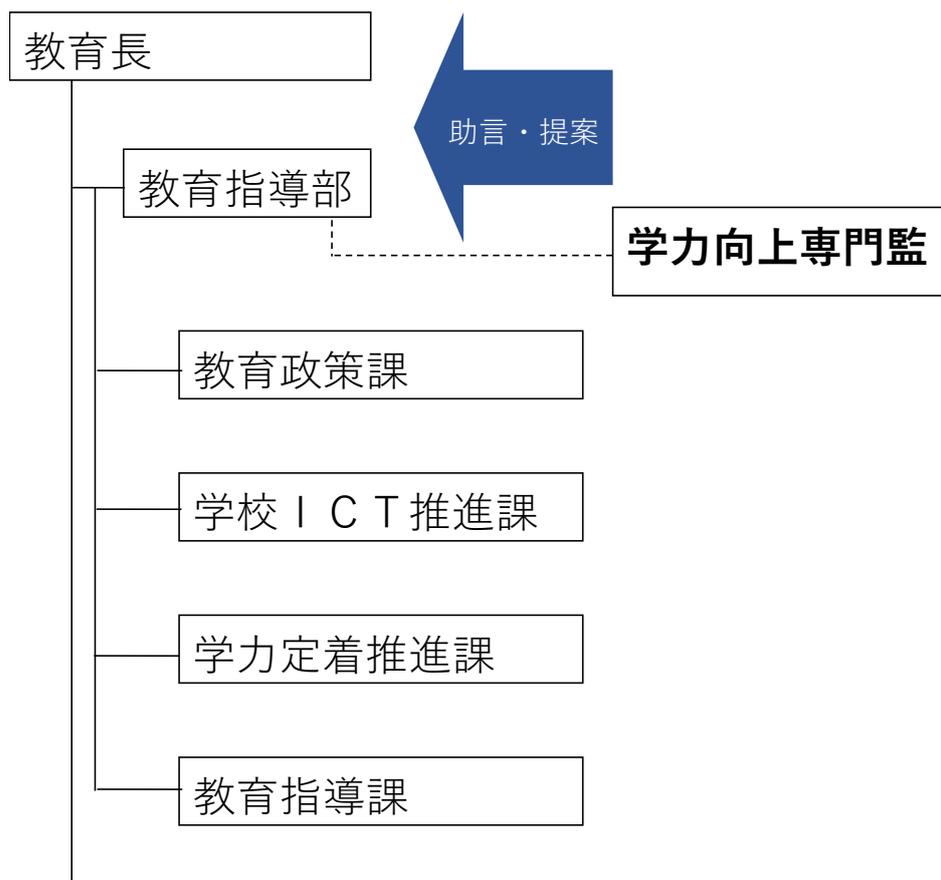
月額：386,000 円 時間単価：3,216 円

※ 期末勤勉手当、通勤手当は支給対象外

《参考》学力定着指導員月額:327,822 円（期末勤勉手当込）

※ 勤務日数、勤務時間は学力向上専門監と同等

5 組織体系



文教委員会報告資料

令和7年3月13日

件名	公立学校情報機器整備事業に係る各種計画の策定について
所管部課名	教育指導部学校ICT推進課
内容	<p>令和8年度に児童生徒用 Chromebook を一斉更新するにあたり、国の補助金活用を見込んでいる。補助金を活用するには、令和6年度中に「公立学校情報機器整備事業に係る各種計画」を策定し、足立区ホームページに公表して、国・都へ報告する必要がある。</p> <p>については「公立学校情報機器整備事業に係る各種計画の策定」について報告する。以下は別添資料2の抜粋。詳細は別添資料2を参照。</p> <p>1 公立学校情報機器整備事業に係る各種計画 各種計画は、次の4分野に分類されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 端末整備更新計画 ② ネットワーク整備計画 ③ 校務DX計画 ④ 一人一台端末の利活用に係る計画 <p>2 端末整備更新計画</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 令和8年度の児童・生徒数 43,000人を見込む。 (2) 端末更新台数 49,450台を更新予定（内、予備機は6,450台）。 (3) 契約時期 令和7年度に債務負担で物品購入・設計構築契約を締結予定。 (4) 端末入替時期 令和8年度の夏季休業期間を予定。 (5) 端末のリユース 令和4年度に導入した5,414台については各校で支援が必要な子どもの対応（不登校対策など）での活用を見込む。 令和2年度、3年度導入の40,005台は適切に処分予定。 <p>3 ネットワーク整備計画</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 必要なネットワーク速度が確保できている学校数と割合 102校（100%） (2) 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール 現時点で文部科学省が示す基準値を達成済。 ア 上り下りともに1Gbps程度の通信速度（これは文科省の示す基準値（700Mbps）を大幅に超える値）。 イ Chromebook を活用した授業の視察の結果、教員及び児童・生徒ともにクラウドサービス利活用時に通信の遅延等は見られず、授業に影響はなかった。

4 校務 DX 計画

- (1) FAX・押印の原則廃止
各課調査を行い FAX/押印業務を把握し、その必要性を検討する。
- (2) 不合理な手入力の廃止
事業者が個人情報を取り扱えるように、新たな仕組み・契約を検討する。
- (3) クラウド環境を活用した校務 DX の取組
提出物の棲み分けを行い、クラウドでの処理を原則とする。
- (4) 次世代の校務支援システムの導入に向けた検討
先行事例の視察を行い、各事業者と連携し、クラウド化された校務支援システム導入を検討する。

5 一人一台端末の利活用に係る計画

- (1) GIGA 第 1 期の総括（活用促進の取組）
 - ア 児童・生徒
GoogleMeet を活用した日本各地の自治体や小・中学校、海外との情報交換・交流や「足立タイピングチャレンジ」等による機運醸成に取り組んだ。
 - イ 教職員
 - ① 教員の ICT 活用スキルに応じた研修の実施、ICT モデル校をはじめとした各校における好事例の発信を行った。
 - ② 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて授業改善に取り組む学校も着実に増加している。
 - ③ 令和 5 年度から Google for Education パートナー自治体プログラムに参画することとなった。
- (2) 今後の課題
 - ア 活用状況
週 5 時間以上教職員端末等を使用して授業を実施した教員の割合が 100% に達していない。
 - ① 小学校：78.3%
 - ② 中学校：67.8%
 - イ 今後の方向性
活用促進の働きかけを、教員の活用状況に応じたものとするこ
とで、区全体の充実を図る。
- (3) 児童・生徒の力を最大限引き出すための ICT 活用の促進
 - ア 研修及びサポート体制
 - ① 教員の ICT 活用スキルに応じた研修の実施
 - ② ICT 支援員を活用した日常的なサポート
 - イ モデル校の指定
特に活用が伸び悩んでいる中学校は、区内 6 ブロック内での輪
番制とし、一定期間内に 35 校全てにモデル校の役割を担わせ、
全ての中学校教員が ICT の利活用に向き合う場面を設定する。

	<p>ウ 専門スタッフの配置 「教育 DX アドバイザー」を新設し、特にサポートの必要な学校等個々の状況に応じた伴走型の支援を行う</p> <p>エ 特別な支援を要する児童・生徒への働きかけ 以下に示す特別な支援を要する全ての児童・生徒に、必要な支援を行う。</p> <ol style="list-style-type: none">① 不登校や教育相談を希望する児童・生徒② 学習活動等の支援が必要な外国籍の児童・生徒③ 障がいのある児童・生徒④ 病気療養児等の特別な支援を要する児童・生徒
--	--

文教委員会報告資料

令和7年3月13日

件名	Chromebook用SIMカード貸与基準の新設について
所管部課名	教育指導部学校ICT推進課
内容	<p>現在、Wi-Fi環境のない家庭には携帯電話回線を使って通信するためのSIMカードを貸与しているが、Wi-Fi環境を整えている家庭との不均衡を防ぐため、貸与基準を定めた要綱を策定する。</p> <p>1 貸与の基準</p> <p>(1) 現状 明確な基準はなく、個別事情に応じてSIMカード（約1,400枚）を貸与している。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>《参考》</p> <p>1 SIMカードの利用状況 基本的に適切に使用されているが、明らかに通信量が過大な場合、学校を通じて通信利用の内容を確認し、学習にそぐわないことが確認できれば指導している。</p> <p>2 紛失について 過去に数件あった。紛失が判明した段階で通信できないよう止める手続きをしている。</p> </div> <p>(2) 基準の新設 要綱に以下の規定を設ける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>自宅等にインターネット環境がない児童・生徒の保護者で、次のいずれかに該当する者</p> <p>(1) 足立区就学援助費支給認定を受けている者</p> <p>(2) 上記以外で、下記に該当する者</p> <p style="padding-left: 20px;">ア 新たに回線を引くまでの間の者</p> <p style="padding-left: 20px;">イ 災害等に遭い避難している者</p> <p>(3) その他教育長が特に認める者</p> </div> <p>2 適用日 令和7年4月1日</p> <p>3 今後の対応</p> <p>(1) 令和7年4月以降に新たに貸与する者（新小学1年生、転入生） 要綱で定めた貸与基準を適用する。</p> <p>(2) 令和7年3月までに貸与した者 要綱は遡及適用しないが、年度ごとにアンケートフォーム等で家庭の状況を確認して、基準に該当しない場合はSIMカード返却の</p>

	<p>理解を求めていく。</p> <p>(3) 貸与の基準とともに、「家庭内における学習のための Wi-Fi 環境は、家庭での整備が原則であること」を併せて周知する。</p>
--	---

文教委員会報告資料

令和7年3月13日

件名	令和7年度実用英語技能検定受験支援事業の拡充について																
所管部課名	教育指導部学力定着推進課																
内容	<p>令和7年度の実用英語技能検定（英検）受験支援事業について、以下のとおり事業内容を拡充する。</p> <p>1 拡充内容</p> <table border="1" data-bbox="437 669 1369 1079"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和6年度（拡充前）</th> <th>令和7年度（拡充後）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学年・級</td> <td>中3：3級以上</td> <td> <u>中1：5級以上</u> <u>中2：4級以上</u> 中3：3級以上 </td> </tr> <tr> <td>回数</td> <td>1人1回</td> <td><u>年度に1回ずつ</u></td> </tr> <tr> <td>予算額</td> <td>26,880千円 (決算見込 12,034千円)</td> <td>29,200千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 既に公費受験が導入されている中学3年生の公費利用率が約45%であることから、新規導入の中学1・2年生については、公費利用率を約40%と見込んで計上した。</p> <p>2 拡充によるメリット・デメリット</p> <p>(1) メリット</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 生徒の英語力向上意欲や学習へのモチベーションへ繋がる。 ② 教員が、より幅広く多くの生徒へ受験勧奨を行える。 <p>(2) デメリット</p> <p>準会場で実施している学校は、受験者数の増加に伴う <u>試験監督の必要数の増加</u> など、学校の負担増となる。</p> <p>⇒ <u>学習支援ボランティアの活用や本会場利用を勧奨する</u> などして対応していく。</p> <p>3 効果の検証について</p> <p>「足立区『使える英語力』育成グランドデザイン」では、中3時点での目標としてCEFR A1相当（英検3級相当）を定めているが、公費受験を中1まで拡大するにあたり、<u>中1，2時点で3級以上に到達している生徒も含めて、本事業の成果</u>としていく。</p> <table border="1" data-bbox="437 1921 1197 2078"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>現状(R5)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>英検3級以上に合格した区立中学1～3年生</td> <td>12.7%</td> </tr> </tbody> </table>		令和6年度（拡充前）	令和7年度（拡充後）	学年・級	中3：3級以上	<u>中1：5級以上</u> <u>中2：4級以上</u> 中3：3級以上	回数	1人1回	<u>年度に1回ずつ</u>	予算額	26,880千円 (決算見込 12,034千円)	29,200千円	指標	現状(R5)	英検3級以上に合格した区立中学1～3年生	12.7%
	令和6年度（拡充前）	令和7年度（拡充後）															
学年・級	中3：3級以上	<u>中1：5級以上</u> <u>中2：4級以上</u> 中3：3級以上															
回数	1人1回	<u>年度に1回ずつ</u>															
予算額	26,880千円 (決算見込 12,034千円)	29,200千円															
指標	現状(R5)																
英検3級以上に合格した区立中学1～3年生	12.7%																

4 今後の方針

令和7年度当初予算案の議決を得られた場合、速やかに区立中学校へ通知し、生徒・保護者に対して受験勧奨を行っていく。

《参考：各学年・級の受験状況（令和5年度実績）》

(1) 区立中学校全体

	1級	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級
受験者数	4	9	134	745	1,880	694	361
費用 単位：千円	47	88	1,073	5,048	10,464	3,263	1,482

(2) 1年生（私費）…学年の16.3%が受験

	1級	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級
受験者数	0	0	4	43	99	264	291
費用 単位：千円	0	0	37	366	684	1,241	1,194

(3) 2年生（私費）…学年の27.0%が受験

	1級	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級
受験者数	0	0	32	184	544	380	65
費用 単位：千円	0	0	292	1,565	3,754	1,787	267

(4) 3年生（1～3級は公費、4・5級は私費）

…学年の42.0%が受験

	1級	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級
受験者数	4	9	98	518	1,237	50	5
費用 単位：千円	47	88	744	3,117	6,026	235	21

文教委員会報告資料

令和7年3月13日

件名	英語教育グランドデザイン指標の見直しについて				
所管部課名	教育指導部学力定着推進課				
内容	<p>令和5年度末に策定した「足立区『使える英語力』育成グランドデザイン」について、英語教育体制の変更に伴い、見直した指標を報告する。</p> <p>1 成果指標の追加</p> <table border="1" data-bbox="416 683 1386 1122"> <tr> <td data-bbox="416 683 627 824">追加した 成果指標</td> <td data-bbox="627 683 1386 824">「区学力調査意識調査『相手に伝わる英語で話す』」</td> </tr> <tr> <td data-bbox="416 824 627 1122">【理由】</td> <td data-bbox="627 824 1386 1122">令和7年度からの小学校におけるALTの拡充に伴い、より実践的なコミュニケーションの場面の創出について、区学力調査意識調査の設問を <u>新たに指標化</u> し、小学校の取組の成果として、中学1年生の調査結果で成果を見取る。</td> </tr> </table> <p>2 今後の方針</p> <p>校長会における連絡及び指導主事、教科指導専門員による訪問により、年度内に各校に改訂内容及び意図を周知し、改めて「足立区『使える英語力』育成グランドデザイン」に掲げる小・中学校段階での学習到達目標の再認識を図る。その上で、「間違いを恐れずに自分の考えを表現できる言語活動」を中心とした授業改善を推進し、児童・生徒の英語力のさらなる育成を図る。</p>	追加した 成果指標	「区学力調査意識調査『相手に伝わる英語で話す』」	【理由】	令和7年度からの小学校におけるALTの拡充に伴い、より実践的なコミュニケーションの場面の創出について、区学力調査意識調査の設問を <u>新たに指標化</u> し、小学校の取組の成果として、中学1年生の調査結果で成果を見取る。
追加した 成果指標	「区学力調査意識調査『相手に伝わる英語で話す』」				
【理由】	令和7年度からの小学校におけるALTの拡充に伴い、より実践的なコミュニケーションの場面の創出について、区学力調査意識調査の設問を <u>新たに指標化</u> し、小学校の取組の成果として、中学1年生の調査結果で成果を見取る。				

足立区「使える英語力」育成グランドデザイン

1 目指す児童・生徒像

間違いを恐れずに、自分の考えを英語で表現できるあだちの子

2 児童・生徒の英語力の目標

活動指標	中学3年生
令和5年度全国学力・学習状況調査意識調査言語活動	75%以上【区】72.3【都】67.7【国】63.8
	85%以上【区】82.9【都】81.6【国】79.3

成果指標		小学6年生	中学3年生
CEFR	A1レベル相当	-	60%以上【区】50.6【都】60.7【国】50.0
学力調査	通過率	-	60%以上【区】59.0【都】-【全】61.3
	意識調査「相手に伝わる英語で話す」	※中学1年生時に小学生時の成果として測る。 65%以上【区】60.5【都】-【全】61.6	60%以上【区】57.1【都】-【全】57.3
区	平均正答率	-	50%以上【区】47.1【都】52.0【国】45.6
	意識調査「英語が好き」	70%以上【区】65.2【都】65.8【国】69.3	60%以上【区】51.5【都】53.9【国】51.9

3 英語を使ってできること（CAN-DOリスト形式による学習到達目標）

※太字は目標値 CEFRはR5、区調査はR6、国調査はR5の確定値 【全】は、区調査を委託している事業者が取り扱っている全自治体分の平均値

	小学4年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	都立入試等で求められる英語力の目安
CEFR	PreA1		PreA1(英検5級)	PreA1(英検4級)	A1(英検3級)	
聞くこと	① 簡単な文句や基本的な表現で、ゆっくりはっきりと話される英語を聞いて、おおよその内容を分かるようにする。 ② アルファベットの文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるか分かるようにする。	身近で簡単な事柄について、ゆっくりはっきりと話される英語を聞いて、おおよその内容や具体的な情報を聞き取ることができる。	日常的话题について、自然な口調で話される英語を聞いて、必要な情報、概要や要点を聞き取ることができる。(80語程度)	日常的话题や社会的な話題について、自然な口調で話される英語を聞いて、必要な情報、概要や要点を聞き取ることができる。(100語程度)	社会的な話題について、自然な口調で話される英語を聞いて、必要な情報、概要や要点を聞き取ることができる。(120語程度)	自然な口調で話される100語程度の会話文や120語程度のスピーチを聞いて、その具体的な内容や大切な部分を聞き取ることができる。
読むこと		① アルファベットの大文字と小文字を識別したり、文字の読み方を発音したりすることができる。 ② 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な文句や基本的な表現で書かれた視覚的情報が添えられた英語を読み、大まかな内容や具体的な情報を捉えることができる。	題材: 日常的话题 日常的话题について書かれた英文を読み、必要な情報、概要や要点を捉えることができる。(100語程度)	日常的话题や社会的な話題について書かれた英文を読み、必要な情報、概要や要点を捉えることができる。(150語程度)	社会的な話題について書かれた英文を読み、必要な情報、概要や要点を捉えることができる。(300~700語程度)	まとまりのある700語程度の対話文や物語文を読み、概要や要点、必要な情報を捉えることができる。
話すこと	やり取り 自分の好みや欲しいものなどについて、慣れ親しんだ文句や表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うようにする。	できることやできないこと、学校生活などについて簡単な文句や基本的な表現を用いて質問したり答えたりして会話を続け、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる。	① 関心のある事柄について、簡単な文句や文を用いて即興で伝え合うことができる。 ② 好きな有名人やテレビ番組などについて、質問したり答えたりして会話を続け、事実や自分の考え、気持ちなどを理由とともに伝え合うことができる。	② お勧めの場所や休日の計画などについて、質問したり答えたりして会話を続け、事実や自分の考え、気持ちなどを理由とともに伝え合うことができる。	② 日本の文化や郷土、世界の現状などについて、質問したり答えたりして会話を続け、事実や自分の考え、気持ちなどを理由とともに述べ合うことができる。	与えられた情報を基に質問に答えたり、自分の考えなどを述べたり、自分から質問したりすることができる。(10秒以内)
	発表 自分のことや校内の好きな場所などについて、イラストや写真などを見せながら、慣れ親しんだ文句や表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを発表するようにする。	夏休みの思い出や将来の夢などについて、簡単な文句や基本的な表現を用いて、伝える内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを発表することができる。	① 関心のある事柄について、簡単な文句や文を用いて即興で発表することができる。 ② 自分の友達や家族、学校生活などについて、伝える内容を整理した上で、事実や自分の考え、気持ちなどを理由とともに発表することができる。	② 自分が体験した出来事や関心のあるイベントなどについて、伝える内容を整理した上で、事実や自分の考え、気持ちなどを理由とともに発表することができる。	② 将来の目標や日本と世界の現状などについて、伝える内容を整理した上で、事実や自分の考え、気持ちなどを理由とともに発表することができる。	イラストが示す内容や、聞いたことや読んだ内容を基に、自分の意見とその理由などについて話すことができる。(40秒以内)
書くこと		① アルファベットの大文字と小文字を正しく書き分けることができる。 ② 夏休みの思い出や行きたい国、将来の夢などについて、音声で十分に慣れ親しんだ文句や基本的な表現を用いて、例文を参考に自分の考えや気持ちなどを書くことができる。	友達のスピーチを聞いたり、図や表が添えられたメールやブログなどを読んだりして、書く内容を整理した上で、事実や自分の考え、気持ちなどを理由とともに英文で書くことができる。(10文・50語程度)	プレゼンテーションを聞いたり、メールを読んだりして、書く内容を整理した上で、事実や自分の考え、気持ちなどを理由とともに英文で書くことができる。(15文・80語程度)	スピーチを聞いたり、掲示物や新聞記事を読んだりして、書く内容を整理した上で、事実や自分の考え、気持ちなどを理由とともに英文で書くことができる。(20文・100語程度)	① 聞き取った事柄について英語で書くことができる。 ② 読み取った内容について自分の考えなどを理由とともに3文の英語で書くことができる。

4 目標達成に向けた主な取組

[使用教科書に合わせて場面や状況を設定]

取組項目	対象	概要	小学校	中学校
授業力の向上	教員	<ul style="list-style-type: none"> 言語活動を通して英語4技能をバランスよく育成 目的や場面、状況等を明確にした言語活動の設定 聞く・話す活動を踏まえた読む・書く活動の設定 児童・生徒が英語を使える達成感のある授業実践 	研修「小中合同外国語活動・外国語科研修 / 小学校外国語活動・外国語科研修」 教科指導専門員(小・中) / 英語教育推進員(小・中)	小学校英語専科教員連絡会(小) / 明海大学連携授業研究会(小・中) / 各種委員会による研究実践 (仮称)英語教育推進校(中)
			外国語指導助手(ALT)(小・中)	外国語指導助手(ALT)(小・中)
学習機会の提供	児童・生徒	<ul style="list-style-type: none"> 児童・生徒一人ひとりの個に応じた学習教材提供 異文化理解の場面や自然な英語使用の場面を創出 外部人材との交流を通して、使える英語力を実感 学習意欲喚起・学習成果を実感する検定受験勧奨 	デジタル教材の提供「学習者用デジタル教科書・AIドリル」 / 都「Welcome to Tokyo」(小・中) / 「ESAT-J・英検対策問題」(中) 都「イングリッシュキャラバン・ウィーク」(小)	英語チャレンジ講座(1年) / 英語マスター講座(1年~3年) 明海大学連携「あけみ英語村」(小) / 明海大学連携「留学生交流事業」(中)
			国・都 英語施策の活用「国際交流コンシェルジュ」 / 「TOKYO GLOBAL GATEWAY(小・中)」	実用英語技能検定受験支援事業(中)

文教委員会報告資料

令和7年3月13日

件名	令和7年度学習者用デジタル教科書の使用方針について								
所管部課名	教育指導部教育指導課								
内容	<p>東京都教育委員会より、令和7年度デジタル教科書の提供方針が示された。これを受けて、当区では、以下のとおり対応する。</p> <p>1 国・都の提供方針</p> <table border="1" data-bbox="414 629 1311 1220"> <thead> <tr> <th data-bbox="422 640 724 689">教科</th> <th data-bbox="732 640 1303 689">提供範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="422 689 724 786">英語</td> <td data-bbox="732 689 1303 786">全ての小学校の5・6年生 全ての中学校の1～3年生</td> </tr> <tr> <td data-bbox="422 786 724 1122">算数・数学</td> <td data-bbox="732 786 1303 1122">小学校・中学校とも、<u>区内の児童・生徒数全体（紙教科書の需要数全体）の5割から6割以内</u>となるまでの学校数を上限に提供。 (令和6年度までの学校数5割から6割より変更) 対象学年は英語と同じ。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="422 1122 724 1220">その他の教科</td> <td data-bbox="732 1122 1303 1220">各都道府県1～3校で実証実験を実施</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 当区の令和7年度学習者用デジタル教科書使用方針</p> <p>(1) 学習者用デジタル教科書は、国から提供される範囲内で使用する。</p> <p>(2) 算数・数学については、令和6年度に導入している学校の活用状況を踏まえ、利用を希望する学校から当課で提供校を選定し実施する。 令和7年度に利用を希望する学校が国から提供される学校数を上回った場合でも、国も効果的な活用を調査・研究している段階であり、国から提供される範囲内で導入する。</p> <p>3 今後の方針</p> <p>国の動向を注視しつつ、デジタル教科書を活用した公開授業、研究授業等を行い、デジタル教科書の活用方法について保護者への周知と、教員間の知識・技能の共有に努めていく。</p>	教科	提供範囲	英語	全ての小学校の5・6年生 全ての中学校の1～3年生	算数・数学	小学校・中学校とも、 <u>区内の児童・生徒数全体（紙教科書の需要数全体）の5割から6割以内</u> となるまでの学校数を上限に提供。 (令和6年度までの学校数5割から6割より変更) 対象学年は英語と同じ。	その他の教科	各都道府県1～3校で実証実験を実施
教科	提供範囲								
英語	全ての小学校の5・6年生 全ての中学校の1～3年生								
算数・数学	小学校・中学校とも、 <u>区内の児童・生徒数全体（紙教科書の需要数全体）の5割から6割以内</u> となるまでの学校数を上限に提供。 (令和6年度までの学校数5割から6割より変更) 対象学年は英語と同じ。								
その他の教科	各都道府県1～3校で実証実験を実施								

文 教 委 員 会 報 告 資 料

令和7年3月13日

件 名	図書館を使った調べる学習コンクール全国コンクールの結果について																																																																														
所 管 部 課 名	教育指導部教育指導課																																																																														
内 容	<p>1 審査結果 () は昨年度実績</p> <p>(1) 入選</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;"></th> <th style="width: 35%;">足立区受賞者数</th> <th style="width: 35%;">全国受賞者数</th> <th style="width: 15%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優良賞</td> <td>8 (5)</td> <td>139 (135)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>奨励賞</td> <td>23 (15)</td> <td>275 (266)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>佳作</td> <td>153 (155)</td> <td>1,385 (1,319)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 作品一覧 (優良賞8作品、奨励賞23作品)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">賞</th> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 60%;">作品名</th> <th style="width: 20%;">学 校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="8">優良賞</td> <td>1</td> <td>女の人はずいぶんしょうをするのか?</td> <td>千寿常東小2年</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>海・山・都会にいる外来種と在来種の昆虫調 ～やはり昆虫は減少しているのだろうか～</td> <td>千寿常東小6年</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>私の eye ぼう何でもお見とおし</td> <td>千寿第八小5年</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>いったい何者?食品添加物とその正体 ～食品添加物とのかしこいつき合い方～</td> <td>宮城小5年</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>#足立区の小松菜がおいしすぎる件</td> <td>長門小5年</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>カイコの大研究</td> <td>東伊興小4年</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>しっぽは何のためにあるの?</td> <td>第七中2年</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>真田幸村 研究所</td> <td>竹の塚中2年</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">奨励賞</td> <td>1</td> <td>うきうき!わくわく!これでみんなもお 札名人になろう!!</td> <td>千寿桜小2年</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>知ってほしい自動販売きのすごさを</td> <td>千寿第八小3年</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>雑草たちは宝物 地球の愛があふれてる</td> <td>西新井第一小4年</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>私の広島旅行記～平和について考える～</td> <td>西新井第一小5年</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ピアノの足元にひっそりついているペダ ルについて調べてみたら…!?</td> <td>西新井第二小6年</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>電気のひみつ</td> <td>本木小6年</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>手話で話そう</td> <td>江北小4年</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>千羽鶴～思いをのせて未来へつなぐ～</td> <td>江北小5年</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>みんなに知ってほしい!熱中症</td> <td>鹿浜五色桜小6年</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>私のランドセルと妹のラン活 ～ランドセルって何からできてるの?～</td> <td>綾瀬小2年</td> </tr> </tbody> </table>				足立区受賞者数	全国受賞者数		優良賞	8 (5)	139 (135)		奨励賞	23 (15)	275 (266)		佳作	153 (155)	1,385 (1,319)		賞		作品名	学 校	優良賞	1	女の人はずいぶんしょうをするのか?	千寿常東小2年	2	海・山・都会にいる外来種と在来種の昆虫調 ～やはり昆虫は減少しているのだろうか～	千寿常東小6年	3	私の eye ぼう何でもお見とおし	千寿第八小5年	4	いったい何者?食品添加物とその正体 ～食品添加物とのかしこいつき合い方～	宮城小5年	5	#足立区の小松菜がおいしすぎる件	長門小5年	6	カイコの大研究	東伊興小4年	7	しっぽは何のためにあるの?	第七中2年	8	真田幸村 研究所	竹の塚中2年	奨励賞	1	うきうき!わくわく!これでみんなもお 札名人になろう!!	千寿桜小2年	2	知ってほしい自動販売きのすごさを	千寿第八小3年	3	雑草たちは宝物 地球の愛があふれてる	西新井第一小4年	4	私の広島旅行記～平和について考える～	西新井第一小5年	5	ピアノの足元にひっそりついているペダ ルについて調べてみたら…!?	西新井第二小6年	6	電気のひみつ	本木小6年	7	手話で話そう	江北小4年	8	千羽鶴～思いをのせて未来へつなぐ～	江北小5年	9	みんなに知ってほしい!熱中症	鹿浜五色桜小6年	10	私のランドセルと妹のラン活 ～ランドセルって何からできてるの?～	綾瀬小2年
	足立区受賞者数	全国受賞者数																																																																													
優良賞	8 (5)	139 (135)																																																																													
奨励賞	23 (15)	275 (266)																																																																													
佳作	153 (155)	1,385 (1,319)																																																																													
賞		作品名	学 校																																																																												
優良賞	1	女の人はずいぶんしょうをするのか?	千寿常東小2年																																																																												
	2	海・山・都会にいる外来種と在来種の昆虫調 ～やはり昆虫は減少しているのだろうか～	千寿常東小6年																																																																												
	3	私の eye ぼう何でもお見とおし	千寿第八小5年																																																																												
	4	いったい何者?食品添加物とその正体 ～食品添加物とのかしこいつき合い方～	宮城小5年																																																																												
	5	#足立区の小松菜がおいしすぎる件	長門小5年																																																																												
	6	カイコの大研究	東伊興小4年																																																																												
	7	しっぽは何のためにあるの?	第七中2年																																																																												
	8	真田幸村 研究所	竹の塚中2年																																																																												
奨励賞	1	うきうき!わくわく!これでみんなもお 札名人になろう!!	千寿桜小2年																																																																												
	2	知ってほしい自動販売きのすごさを	千寿第八小3年																																																																												
	3	雑草たちは宝物 地球の愛があふれてる	西新井第一小4年																																																																												
	4	私の広島旅行記～平和について考える～	西新井第一小5年																																																																												
	5	ピアノの足元にひっそりついているペダ ルについて調べてみたら…!?	西新井第二小6年																																																																												
	6	電気のひみつ	本木小6年																																																																												
	7	手話で話そう	江北小4年																																																																												
	8	千羽鶴～思いをのせて未来へつなぐ～	江北小5年																																																																												
	9	みんなに知ってほしい!熱中症	鹿浜五色桜小6年																																																																												
	10	私のランドセルと妹のラン活 ～ランドセルって何からできてるの?～	綾瀬小2年																																																																												

奨励賞	11	もったいない	綾瀬小2年
	12	南米アマゾンから考える環境問題	東湊江小3年
	13	マンホールって何？ 地下につながるすてきなとびら	大谷田小3年
	14	はちみつ!! ひみつ!! しりたい!! みつばち ～すの中に入れてみよう～	長門小2年
	15	味の不思議	長門小4年
	16	なぜ変わるの？値だん不思議	花畑第一小5年
	17	地震はなぜおきる？	湊江小2年
	18	黒ねこがふきつって本当？	伊興小3年
	19	宗教から分かった世界のこと	東伊興小6年
	20	「おくのほそ道」の謎 ～出立地は足立区か荒川区か～	第一中2年
	21	足立区綾瀬発 計って量って見えてきた ギンヤンマ・ヤゴの秘密	第十一中1年
	22	ちょっと成分よく見せて！それは毒な の？葉なの？	第十二中1年
	23	好き飛び！	伊興中2年

2 今後の方針

- (1) 入選（優良賞、奨励賞、佳作）の児童・生徒については、作品名、学校名等を足立区ホームページ上で紹介する。また、優良賞については、作品の内容を紹介する。
- (2) 入選作品数の増加は、各学校において探究的な学びが推進されていること、本コンクール実施の通知等を例年より早め、児童・生徒が時間をかけて丁寧に取り組むことにより作品の質が向上したためと考える。
- (3) 次年度は、千住宿400周年の啓発事業として、足立にかかわる対象を募集テーマに加え「千住宿400周年特別賞」を特設する。また、教育政策課と連携し、足立区特別賞受賞児童・生徒を対象とした表彰式を実施するとともに、優秀作品の冊子化及び学校図書館等への配布を行い、本コンクールの充実を図っていく。

文教委員会報告資料

令和7年3月13日

件名	令和7年度部活動地域移行モデル事業実証実験の検討状況について
所管部課名	教育指導部教育指導課
内容	<p>令和7年度部活動地域移行モデル事業実証実験の検討状況を報告する。</p> <p>1 事業概要 中学校部活動の顧問を務める教員の負担軽減を目的に、令和7・8年度の2年間をモデル事業として運動部の技術指導をプロチームに委託する。</p> <p>2 開始時期（予定） 第2学年が中心の新チームが活動を開始する令和7年6月頃を目指す。</p> <p>3 モデル事業実施予定校 足立区小中一貫教育校 新田学園</p> <p>4 実施校選定理由 (1) 他校への展開を見据え、教員の負担軽減となる部活動指導のあり方をサッカー部の運営及び中体連との連携に精通している顧問を交えて構築する必要があるため。 (2) 練習用のグラウンドとクラブハウスが確保でき、他の運動部の活動に影響が小さい場所であるため。</p> <p>5 活動日及び活動時間 (1) 週4日（平日3日、休日1日）を予定 (2) 活動時間については、部活動ガイドラインに準じて、平日は2時間、休日は3時間とする。ただし大会等の場合はその限りではない。</p> <p>6 今後の方針 (1) モデル事業開始について、令和7年3月に新田学園で保護者向け説明会を実施する予定。令和7年4月にプロチームと委託契約を締結し、令和7年6月の事業開始に向けた準備を進めていく予定。 (2) モデル事業実施に伴う教員の負担軽減に係る効果検証、及び指導を受けた生徒へ新たな指導体制に関するアンケートを令和7年度中に実施し、次年度の体制整備の参考とする。 (3) 文化部についても、部活動負担軽減モデルの構築に向けて準備を進めていく。</p>

文教委員会報告資料

令和7年3月13日

件名	令和8年度「ペアレントトレーニング」事業改善について																		
所管部課名	こども支援センターげんき支援管理課																		
内容	<p>就学後のペアレントトレーニング（※）について、令和7年度は一旦休止し、令和8年度に向けて「保護者の困りごと別学習会」に実施形態を変更することを検討していく。</p> <p>※ 就学後のペアレントトレーニングでは、小学生の保護者を対象に、発達障がいについての一般的な理解を促す講義やグループワークを行い、子どもへの関わり方を学ぶことや同様の悩みを抱える保護者同士の交流の場を提供している。</p> <p>1 令和2年度～令和6年度の実施状況と課題</p> <p>(1) 年間で2クール実施（7回＋1回フォロー×2クール） 7回全出席を条件とし、あだち広報とホームページで公募した。 【～令和5年度】前期、後期：小学校1～6年生 【令和6年度】 前期：小学校4～6年生 後期：小学校1～3年生</p> <p>(2) 参加実績</p> <table border="1" data-bbox="475 1093 1345 1397"> <thead> <tr> <th></th> <th>前期</th> <th>後期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>4名</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>3名</td> <td>7名（うち両親1組）</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>8名（うち両親1組）</td> <td>3名</td> </tr> <tr> <td>令和5年度</td> <td>3名</td> <td>4名</td> </tr> <tr> <td>令和6年度</td> <td>3名</td> <td>6名</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 課題 ア 保護者アンケートの結果、相談ニーズが“発達障がいの一般的な理解”から“保護者の困りごとへの対応”へ変化している。 イ 参加者の理解度やお子さんの特徴に応じた個別的な助言が求められる。</p> <p>2 今後の方針</p> <p>(1) 実施内容の検討 ア プログラム内容を困りごと別に組む。 イ 全出席を条件とせず、希望する回のみでの参加も可能とし、参加しやすい形態とする。 ウ 資料をパッケージ化し内容を明確にする。</p> <p>(2) 実施者の検討 ア 実施者を委託または直営実施とするかを検討していく。 イ 令和7年夏ごろには、実施内容・実施者の選定を行う。</p>		前期	後期	令和2年度	4名	1名	令和3年度	3名	7名（うち両親1組）	令和4年度	8名（うち両親1組）	3名	令和5年度	3名	4名	令和6年度	3名	6名
	前期	後期																	
令和2年度	4名	1名																	
令和3年度	3名	7名（うち両親1組）																	
令和4年度	8名（うち両親1組）	3名																	
令和5年度	3名	4名																	
令和6年度	3名	6名																	

(3) 令和8年度以降の取組（案）

	就学前	就学後
変更の有無	変更なし（継続）	変更あり
対象	特別支援教室の利用決定した年長児の保護者	発達に心配のある小学生の保護者
事業内容	ペアレントトレーニング	困りごと別学習会

文教委員会報告資料

令和7年3月13日

件名	東京都バーチャル・ラーニング・プラットフォーム（VLP）事業の実施状況について																									
所管部課名	こども支援センターげんき教育相談課																									
内容	令和6年8月に開始した東京都バーチャル・ラーニング・プラットフォーム（VLP）事業について、現段階の実施状況を報告する。																									
	1 概要																									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">事業概要</th> <th>room-k（参考）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>内容</td> <td>都がオンラインの仮想空間を構築し、アバターによる不登校児童・生徒の居場所を提供</td> <td>オンラインでの高い伴走支援と学びの場づくり</td> </tr> <tr> <td>運営</td> <td>都のシステムを各自治体が運営</td> <td>NPO法人カタリバ</td> </tr> <tr> <td>費用</td> <td>無料</td> <td>2,255千円（R6）</td> </tr> <tr> <td>他区</td> <td>都内30自治体等が参加</td> <td>全国で5自治体</td> </tr> <tr> <td>対象</td> <td>ア チャレンジ学級等への通級が不定期、又は通級に踏み出せない児童・生徒（教育相談員・SSW推薦） イ 対面による個別支援が難しい児童・生徒（学校推薦）</td> <td>不登校が長期化し他者とつながりのない生徒（SSW推薦）</td> </tr> <tr> <td>定員</td> <td>40名（利用者20名）</td> <td>4名（利用者4名）</td> </tr> <tr> <td>支援内容</td> <td>ア 学習教材（AIドリル等）を用いた <u>個別学習</u> イ 支援員とのチャットによる <u>交流</u> ウ バーチャル空間内でのコミュニケーションを図ることを目的とした <u>オンライン部活</u> 例）「お絵かき部」 支援員が進行し、バーチャル空間内にいる児童・生徒複数で絵を用いたしりとりを行う。できた作品を一定期間バーチャル内で掲示して閲覧できる。</td> <td>ア 学習支援 イ メンターの面談 ウ コーディネーターの保護者支援</td> </tr> </tbody> </table>		事業概要		room-k（参考）	内容	都がオンラインの仮想空間を構築し、アバターによる不登校児童・生徒の居場所を提供	オンラインでの高い伴走支援と学びの場づくり	運営	都のシステムを各自治体が運営	NPO法人カタリバ	費用	無料	2,255千円（R6）	他区	都内30自治体等が参加	全国で5自治体	対象	ア チャレンジ学級等への通級が不定期、又は通級に踏み出せない児童・生徒（教育相談員・SSW推薦） イ 対面による個別支援が難しい児童・生徒（学校推薦）	不登校が長期化し他者とつながりのない生徒（SSW推薦）	定員	40名（利用者20名）	4名（利用者4名）	支援内容	ア 学習教材（AIドリル等）を用いた <u>個別学習</u> イ 支援員とのチャットによる <u>交流</u> ウ バーチャル空間内でのコミュニケーションを図ることを目的とした <u>オンライン部活</u> 例）「お絵かき部」 支援員が進行し、バーチャル空間内にいる児童・生徒複数で絵を用いたしりとりを行う。できた作品を一定期間バーチャル内で掲示して閲覧できる。	ア 学習支援 イ メンターの面談 ウ コーディネーターの保護者支援
	事業概要		room-k（参考）																							
	内容	都がオンラインの仮想空間を構築し、アバターによる不登校児童・生徒の居場所を提供	オンラインでの高い伴走支援と学びの場づくり																							
	運営	都のシステムを各自治体が運営	NPO法人カタリバ																							
	費用	無料	2,255千円（R6）																							
	他区	都内30自治体等が参加	全国で5自治体																							
	対象	ア チャレンジ学級等への通級が不定期、又は通級に踏み出せない児童・生徒（教育相談員・SSW推薦） イ 対面による個別支援が難しい児童・生徒（学校推薦）	不登校が長期化し他者とつながりのない生徒（SSW推薦）																							
	定員	40名（利用者20名）	4名（利用者4名）																							
支援内容	ア 学習教材（AIドリル等）を用いた <u>個別学習</u> イ 支援員とのチャットによる <u>交流</u> ウ バーチャル空間内でのコミュニケーションを図ることを目的とした <u>オンライン部活</u> 例）「お絵かき部」 支援員が進行し、バーチャル空間内にいる児童・生徒複数で絵を用いたしりとりを行う。できた作品を一定期間バーチャル内で掲示して閲覧できる。	ア 学習支援 イ メンターの面談 ウ コーディネーターの保護者支援																								
2 主な成果実例（一部）																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>利用前</th> <th>利用後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者との関係がよくない ・家庭内での会話は少ない ・校外とのつながりもない </td> <td>バーチャル空間で、<u>家族以外の他者とつながり</u>、会話につなげることができた。（支援員とのチャットのログより）</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃家庭にいる ・学習を行っていなかった </td> <td>不登校児童・生徒が <u>学習コンテンツに興味を持ち、個別学習を進めた</u>。（学習コンテンツの利用記録より）</td> </tr> </tbody> </table>		利用前	利用後	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との関係がよくない ・家庭内での会話は少ない ・校外とのつながりもない 	バーチャル空間で、 <u>家族以外の他者とつながり</u> 、会話につなげることができた。（支援員とのチャットのログより）	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃家庭にいる ・学習を行っていなかった 	不登校児童・生徒が <u>学習コンテンツに興味を持ち、個別学習を進めた</u> 。（学習コンテンツの利用記録より）																			
利用前	利用後																									
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との関係がよくない ・家庭内での会話は少ない ・校外とのつながりもない 	バーチャル空間で、 <u>家族以外の他者とつながり</u> 、会話につなげることができた。（支援員とのチャットのログより）																									
<ul style="list-style-type: none"> ・日頃家庭にいる ・学習を行っていなかった 	不登校児童・生徒が <u>学習コンテンツに興味を持ち、個別学習を進めた</u> 。（学習コンテンツの利用記録より）																									
3 今後の方針																										
(1) 利用生徒の様子を在籍校にフィードバックするとともに、本事業																										

	<p>の内容・効果を研修で周知し、利用を募る。</p> <p>(2) 令和7年度に向けて専任の指導員の確保とコンテンツの見直しを図る。</p> <p>(3) VLP、room-kの事業効果を検証し、令和8年度以降の統合も含め事業のすみ分けを整理する。</p>
--	---

文教委員会報告資料

令和7年3月13日

件名	不登校に関する児童・生徒、保護者アンケートの概要（案）について
所管部課名	こども支援センターげんき教育相談課
内容	<p>標記の件について、現在の検討状況を報告する。</p> <p>1 令和6年度調査（プレ調査）（令和7年2月～3月に調査）</p> <p>（1）目的 不登校の要因と当事者がどのような支援を求めているのかを把握し、今後の施策に生かすとともに、令和7年度の本調査に向けた設問の妥当性を検証</p> <p>（2）対象者 チャレンジ学級、あすテップなど、教育相談課とつながりのある <u>不登校</u> の小・中学生（約100人）</p> <p>（3）調査方法 チャレンジ学級等への通級時にアンケート配付</p> <p>（4）調査内容（ ）内は質問のねらい</p> <p>① 学校に行きたくない、行けない理由（要因を把握）</p> <p>② 現在困っていることとその理由</p> <p>③ 利用している支援策とその満足度</p> <p>④ 必要な支援（新たな支援策の必要性）</p> <p>2 令和7年度調査（本調査）（9月にアンケート調査実施予定）</p> <p>（1）目的 不登校だけでなく不登校傾向にある児童・生徒の実態及び児童・生徒、保護者が求める支援を把握し、効果的な支援策に反映させる</p> <p>（2）対象者</p> <p>① 区立小中学校在籍の <u>全児童・生徒</u>（約42,000人）</p> <p>② <u>①の保護者</u></p> <p>（3）調査方法 アンケートの回答は、以下のア、イの2案を検討</p> <p>ア あらかじめ学校から配付したQRコードをタブレット等で読み込み、オンライン上で回答する</p> <p>イ 学校から紙ベースで案内を配付し、回答はQRコードによるオンラインまたは、紙ベースで回答</p> <p>（4）主な設問内容（案） ア・イ共に20問程度</p> <p>ア 児童・生徒向け調査</p> <p>① 学校はどんなところか（学校に対する思いを把握）</p> <p>② 学校に行きたくない、行けない理由（要因を把握）</p> <p>③ 登校状況（登校渋りや別室登校、不登校の状況を把握）</p> <p>④ 支援策の認知度（利用状況、満足度を把握）</p> <p>⑤ 支援策を利用しなかった理由</p>

(何がネックとなっているか把握)

⑥ 手助けしてほしかったこと (求める支援を把握)

イ 保護者向け調査

「ア 児童・生徒向け調査」①～⑤の設問に加え、

① 子どもの病気や障がいの状況

(病気や発達障がいとの関連性)

② 子どもが不登校になった時の保護者の行動

③ 登校に対する保護者の考え

④ 保護者の状況：世帯構成、勤務形態、外国籍等

(不登校と家庭状況との関連)

⑤ 支援してほしいこと (求める支援を把握)

3 スケジュール

令和7年 9月 アンケート実施

12月 アンケート結果速報値 (調査会社)

令和8年 3月 分析結果報告 (学識経験者)

4 設問の検討体制

不登校施策推進担当課 (4月以降)、学校ICT推進課、教育指導課、教育相談課 (心理職、SC、SSW含む。)、小・中学校長、庁内関係所管、学識経験者

5 令和7年度 当初予算 (案) 計上額

アンケート実施委託 12,674千円

6 今後の方針

9月の調査実施に向けて学識経験者等のご意見も伺いながら、設問案の詳細を検討する。

文教委員会報告資料

令和7年3月13日

件名	足立区フリースクール等利用料助成金の開始について（案）						
所管部課名	こども支援センターげんき教育相談課						
内容	<p>不登校児童・生徒の保護者の負担軽減を目的に、令和7年度から「足立区フリースクール等利用料助成金」の開始を検討している。 ついては、以下のとおり案を報告する。</p> <p>1 対象 以下のすべてに該当する児童・生徒の保護者。 なお、小・中学生を対象とし、<u>在籍校の公立・私立は問わない。</u></p> <table border="1" data-bbox="435 752 1388 1133"> <tr> <td data-bbox="435 752 646 853">保護者及び児童・生徒</td> <td data-bbox="646 752 1388 853">足立区内に住所を有している。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="435 853 646 958">保護者</td> <td data-bbox="646 853 1388 958"><u>東京都フリースクール等利用者等支援事業助成金（以下「都助成金」）の交付決定を受けている。</u></td> </tr> <tr> <td data-bbox="435 958 646 1133">児童・生徒</td> <td data-bbox="646 958 1388 1133">欠席日数を問わず、何らかの心理的・情緒的・身体的もしくは社会的要因、背景により在籍校へ登校できていない状態にある。</td> </tr> </table> <p>2 助成額 都助成額に上乗せの形で、<u>1月あたり上限2万円</u> （区助成額 = 利用料 - 都助成額 - <u>その他助成金等</u> *1） *1 その他助成金等は、東京都以外の自治体や財団等の利用料助成を想定。 7年度当初予算案に、2万円×12ヵ月×100人=24,000千円を計上。</p> <p>3 助成対象経費 フリースクール等の利用料 ※ 入会金、食事代などのその他料金は対象外</p> <p>4 助成方法 四半期ごとに、申請者からの実績報告に基づいて助成する。 なお、<u>同一年度内の遡及申請は可能とする予定</u>である。</p> <p>5 募集開始時期 都助成金の交付決定後、<u>9月中旬以降</u>に募集開始予定。</p> <p>6 今後の方針 令和7年度当初予算案の議決を得られた場合、速やかにフリースクール等の利用者及び小・中学生の保護者に周知していく。</p>	保護者及び児童・生徒	足立区内に住所を有している。	保護者	<u>東京都フリースクール等利用者等支援事業助成金（以下「都助成金」）の交付決定を受けている。</u>	児童・生徒	欠席日数を問わず、何らかの心理的・情緒的・身体的もしくは社会的要因、背景により在籍校へ登校できていない状態にある。
保護者及び児童・生徒	足立区内に住所を有している。						
保護者	<u>東京都フリースクール等利用者等支援事業助成金（以下「都助成金」）の交付決定を受けている。</u>						
児童・生徒	欠席日数を問わず、何らかの心理的・情緒的・身体的もしくは社会的要因、背景により在籍校へ登校できていない状態にある。						

文教委員会報告資料

令和7年3月13日

件名	【追加】宮城小学校施設更新に伴う設計等業務委託の公募型プロポーザルによる事業者の特定結果について
所管部課名	学校運営部学校施設管理課
内容	<p>宮城小学校施設更新に伴う設計等業務委託事業者選定委員会におけるプロポーザル方式による審査の結果、以下の事業者を契約の相手方として特定したので、以下のとおり報告する。</p> <p>1 業務名 宮城小学校施設更新に伴う設計等業務委託</p> <p>2 業務目的、内容 (1) 業務目的 宮城小学校の老朽化に伴う施設更新 (2) 業務内容 基本構想、基本計画、基本設計、実施設計等</p> <p>3 特定した相手方 (1) 事業者名 山下設計エス・ティプランニング設計共同企業体 代表者 株式会社山下設計 代表取締役社長 藤田秀夫 (2) 所在地 東京都中央区日本橋小網町6番1号</p> <p>4 申込事業者数 3事業者</p> <p>5 提案価格 308,000,000円(税込)</p> <p>6 業務期間 契約締結日から令和9年12月24日まで</p> <p>7 特筆すべき提案概要、評価した理由・ポイント (1) 宮城小学校の周辺環境を踏まえ、地域との連携が図りやすい施設配置が考えられていた。 (2) 周囲が川に囲まれ、水害時の浸水リスクが高いという宮城小学校の地域性を理解し、避難所機能に関する提案に反映させていた。 (3) 設計を進めていく過程において、保護者や地域住民の意見を聞く手法等が具体的に示されていた。</p>

8 特定までの経緯

(1) 公募期間 令和6年10月1日から同月16日まで

(2) 選定委員会

ア 委員会開催状況

	開催日	内容	審査事業者数
第1回	令和6年 7月12日	選定方法や評価項目等の確認	—
第2回	令和6年 11月15日	第一次審査（提案書提出者の選定：書類審査）	3事業者
第3回	令和7年 1月15日	第二次審査（プレゼンテーション参加者の選定：書類審査）	2事業者
第4回	令和7年 2月19日	第三次審査（事業者の特定：プレゼンテーション、ヒアリング）	2事業者

イ 委員構成（計5名）

種別	氏名	役職等
学識経験者	大島 隆代 【委員長】	文教大学 人間科学部 人間科学科 准教授
	土田 寛	東京電機大学 未来科学部 建築学科 教授
区民	松沼 勝	まちづくりカウンセラー
	下川 佐智子	宮城小学校開かれた学校づくり協議会会長
区職員	中村 明慶	教育長

ウ 審査項目及び審査結果

P27「宮城小学校施設更新に伴う設計等業務委託提案書提出者選定結果（第一次）及び提案書特定結果（第二次、第三次）」のとおり。

9 今後のスケジュール（予定）

- (1) 令和7年4月～令和7年 7月 基本構想・基本計画書作成
- (2) 令和7年8月～令和8年 4月 基本設計作成
- (3) 令和8年5月～令和9年 5月 実施設計作成
- (4) 令和9年6月～令和9年12月 計画通知等諸手続

宮城小学校施設更新に伴う設計等業務委託提案書提出者選定結果及び提案書特定結果

1 提案書提出者選定結果（一次審査）

	点数	結果
山下設計エス・ティプランニング 設計共同企業体	382	提案書提出者に選定
A	368	提案書提出者に選定
B	327	提案書提出者に選定

※一次審査の点数は、二次審査には持ち越さない

2 提案書特定結果（二次審査、三次審査）

	二次審査 点数	三次審査 点数	合計	結果
山下設計エス・ティプランニング 設計共同企業体	317	87	404	特定
B	227	55	282	次点
A	—	—	—	※辞退

※二次審査（提案書審査）、三次審査（プレゼンテーション、ヒアリング審査）の合計点が最も高かった事業者を候補者として特定

※Aは辞退

文教委員会報告資料

令和7年3月13日

件名	社会人に向けた返済支援助成制度（案）について																					
所管部課名	学校運営部学務課																					
内容	<p>令和7年度から、以下のとおり「社会人に向けた返済支援助成制度（以下「新制度」という。）」を実施する。</p> <p>なお、現行の返済支援助成制度と新制度は、応募時期が異なるものの（現行制度は高校生又は大学生、新制度は社会人）、結果的に上限100万円を支援することにかわりはないことから、令和8年度以降は統合して実施する。</p> <p>1 新制度の概要など</p> <p>(1) 新制度の概要</p> <p>対象となる奨学金（下記（3）を参照）を返済している社会人に対して、「前年度中に返済した額の半額（上限20万円）」を助成する。</p> <table border="1" data-bbox="400 981 1449 1256"> <thead> <tr> <th></th> <th>R 7</th> <th>R 8</th> <th>R 9</th> <th>R 10</th> <th>R 11</th> <th>R 12</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>奨学金の返済額</td> <td>40万</td> <td>40万</td> <td>40万</td> <td>40万</td> <td>40万</td> <td></td> </tr> <tr> <td>返済額の半額を助成</td> <td>半額</td> <td>20万</td> <td>20万</td> <td>20万</td> <td>20万</td> <td>20万</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">一人あたり最大5回（20万×5回＝100万）を助成</p> <p>(2) 対象者（応募要件）</p> <p>ア 対象となる奨学金（下記（3）を参照）を返済している社会人</p> <p>イ 申請時において足立区に6か月以上居住している方</p> <p>(3) 対象となる奨学金</p> <p>ア 足立区育英資金</p> <p>イ 東京都育英資金（高校分）</p> <p>ウ 日本学生支援機構第一種奨学金（無利子）</p> <p>エ 日本学生支援機構第一種・第二種（有利子）併用貸与</p> <p>※ 日本学生支援機構第二種奨学金（有利子）のみ貸与の方は、所得上限の目安が1,250万（4人世帯）のため、除外</p> <p>(4) 新制度導入のメリット</p> <p>ア 「日本学生支援機構第一種・第二種（有利子）併用貸与」を対象とすることで、利子を含めた返済支援につながる。</p> <p>イ 区内在住を要件とすることで、足立区への定住促進につながる。</p> <p>ウ 「返済した額の半額を助成」とすることで、足立区育英資金の収納</p>		R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12	奨学金の返済額	40万	40万	40万	40万	40万		返済額の半額を助成	半額	20万	20万	20万	20万	20万
	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12																
奨学金の返済額	40万	40万	40万	40万	40万																	
返済額の半額を助成	半額	20万	20万	20万	20万	20万																

率向上（納付促進）につながる。

2 今後の予定

日程	内容
令和7年 6月	令和7年第2回区議会定例会に「足立区育英資金条例の一部を改正する条例」を上程
令和7年11月	（以下、条例改正の議決を得られた場合） 現行の返済支援助成制度の募集開始。あわせて、新制度の募集も開始 ※令和8年度以降は、2つの制度を統合する。
令和8年 1月	足立区育英資金審議会に付議（採用候補者の選考）
令和8年 2月	採用候補者の決定

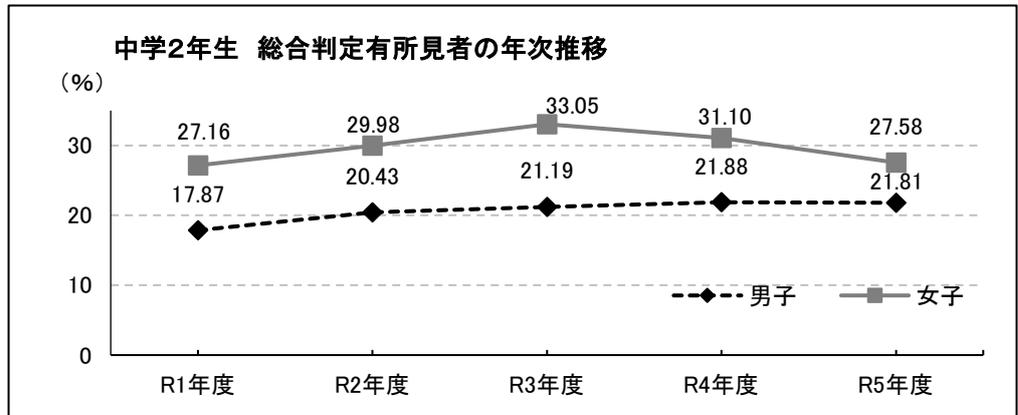
文教委員会報告資料

令和7年3月13日

件名	足立区学校保健統計書（令和5年度実績）の概要について																																																										
所管部課名	学校運営部学務課																																																										
内容	<p>令和5年度健康診断等の集計結果の概要について、次のとおり報告する。</p> <p>1 統計書の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 児童生徒の発育状態 (2) 貧血・小児生活習慣病予防健診結果 (3) 定期健康診断疾病異常調査結果 (4) 脊柱側弯症検診結果 (5) 就学時健康診断結果 (6) 児童生徒の感染症り患状況 (7) 学校管理下における災害発生状況 <p>2 概要</p> <p>(1) 児童生徒の発育状態</p> <p>肥満傾向（肥満度20%以上）の割合は、過去5年間、横ばいで推移している。また、すべての学年で肥満傾向の割合が全国・東京都を上回っている。</p> <div data-bbox="375 1249 1428 1585"> <p>(%) 肥満傾向(肥満度20%以上)割合年次推移【男女合計】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>小学生 (%)</th> <th>中学生 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R1年度</td> <td>9.22</td> <td>10.77</td> </tr> <tr> <td>R2年度</td> <td>12.33</td> <td>13.37</td> </tr> <tr> <td>R3年度</td> <td>10.87</td> <td>12.57</td> </tr> <tr> <td>R4年度</td> <td>12.21</td> <td>13.52</td> </tr> <tr> <td>R5年度</td> <td>11.13</td> <td>12.94</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div data-bbox="375 1619 1428 2056"> <p>(%) 肥満傾向児(20%以上)出現率【男女合計】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>全国 (%)</th> <th>東京都 (%)</th> <th>足立区 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小1</td> <td>5.30</td> <td>5.30</td> <td>5.30</td> </tr> <tr> <td>小2</td> <td>8.00</td> <td>8.00</td> <td>8.00</td> </tr> <tr> <td>小3</td> <td>10.53</td> <td>10.53</td> <td>10.53</td> </tr> <tr> <td>小4</td> <td>13.43</td> <td>13.43</td> <td>13.43</td> </tr> <tr> <td>小5</td> <td>14.13</td> <td>14.13</td> <td>14.13</td> </tr> <tr> <td>小6</td> <td>14.69</td> <td>14.69</td> <td>14.69</td> </tr> <tr> <td>中1</td> <td>14.07</td> <td>14.07</td> <td>14.07</td> </tr> <tr> <td>中2</td> <td>12.83</td> <td>12.83</td> <td>12.83</td> </tr> <tr> <td>中3</td> <td>11.97</td> <td>11.97</td> <td>11.97</td> </tr> </tbody> </table> </div>	年度	小学生 (%)	中学生 (%)	R1年度	9.22	10.77	R2年度	12.33	13.37	R3年度	10.87	12.57	R4年度	12.21	13.52	R5年度	11.13	12.94	学年	全国 (%)	東京都 (%)	足立区 (%)	小1	5.30	5.30	5.30	小2	8.00	8.00	8.00	小3	10.53	10.53	10.53	小4	13.43	13.43	13.43	小5	14.13	14.13	14.13	小6	14.69	14.69	14.69	中1	14.07	14.07	14.07	中2	12.83	12.83	12.83	中3	11.97	11.97	11.97
年度	小学生 (%)	中学生 (%)																																																									
R1年度	9.22	10.77																																																									
R2年度	12.33	13.37																																																									
R3年度	10.87	12.57																																																									
R4年度	12.21	13.52																																																									
R5年度	11.13	12.94																																																									
学年	全国 (%)	東京都 (%)	足立区 (%)																																																								
小1	5.30	5.30	5.30																																																								
小2	8.00	8.00	8.00																																																								
小3	10.53	10.53	10.53																																																								
小4	13.43	13.43	13.43																																																								
小5	14.13	14.13	14.13																																																								
小6	14.69	14.69	14.69																																																								
中1	14.07	14.07	14.07																																																								
中2	12.83	12.83	12.83																																																								
中3	11.97	11.97	11.97																																																								

(2) 貧血・小児生活習慣病予防健診（中2）

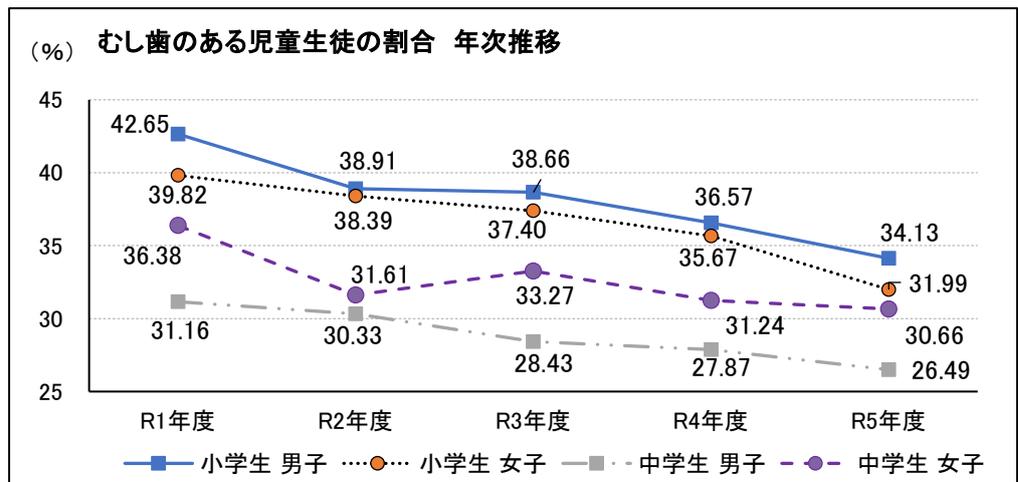
総合判定結果は、男子の4.6人に1人、女子の3.6人に1人が有所見者である。なお、前年度と比較して男子は横ばい、女子は減少している。



※ 有所見とは正常・管理不要以外の診断だったもの

(3) むし歯

むし歯のある児童生徒の割合は、小学生・中学生ともに減少傾向にある。また、すべての学年でむし歯のある割合が東京都平均を上回っている。



		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
男子	足立区	25.99	32.43	39.50	40.38	37.09	28.73	25.61	24.40	29.37
	東京都	21.71	27.52	33.49	36.06	33.12	25.78	24.79	23.98	26.89
女子	足立区	25.99	30.62	38.11	39.02	31.64	26.65	30.94	28.84	32.18
	東京都	20.40	26.04	31.93	33.21	30.46	24.61	27.09	27.66	31.21

3 今後の予定

区ホームページで公開するとともに、各学校及び衛生部等の関係部署と共有し、児童・生徒の健康教育に活用していく。

文教委員会報告資料

令和7年3月13日

件名	令和8年度あだち放課後子ども教室の民間事業者への委託の検討状況について									
所管部課名	学校運営部 青少年課 足立区生涯学習振興公社									
内容	<p>令和8年度以降のあだち放課後子ども教室の民間委託の検討の進捗について報告する。</p> <p>1 経緯</p> <p>放課後子ども教室と親和性が高い学童保育室との一体的な運営が効果的と考えられる。そのため校内学童かつ指定管理学童のある放課後子ども教室を対象とする。</p> <p>(1) 開始時期 令和8年4月1日から</p> <p>(2) 検討対象 令和7年度に指定管理学童を公募する各校を検討対象とする。 大谷田小学校 島根小学校 千寿第八小学校 東栗原小学校 計4校</p> <p>2 ヒアリングの実施</p> <p>検討対象校他1校の計5校に対して、ヒアリングを行ったところ、以下の意見をいただいた。</p> <p>5校中4校は、明確な賛成・反対意見はなく、引き続き協議することとなった。残りの1校はすでに週5日、全学年対象を実現していることもあり、反対寄りの意見であった。</p> <p>主な意見</p> <table border="1" data-bbox="395 1509 1401 1944"> <thead> <tr> <th data-bbox="395 1509 890 1563">好意的な意見</th> <th data-bbox="890 1509 1401 1563">懸念</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="395 1563 890 1711">① 将来的に実行委員会だけで運営していくのは難しいのでやむを得ない。</td> <td data-bbox="890 1563 1401 1711">① 委託になると会社の指揮命令系統に組み込まれ、労働環境がどう変わるのか不安。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="395 1711 890 1800">② 体力的に厳しくなってきたが、後継者がいない。</td> <td data-bbox="890 1711 1401 1854">② 子どもが懐いているスタッフがなくなる可能性もある。</td> </tr> <tr> <td></td> <td data-bbox="890 1854 1401 1944">③ 制度が変わると子どもは戸惑うかもしれない。</td> </tr> </tbody> </table>		好意的な意見	懸念	① 将来的に実行委員会だけで運営していくのは難しいのでやむを得ない。	① 委託になると会社の指揮命令系統に組み込まれ、労働環境がどう変わるのか不安。	② 体力的に厳しくなってきたが、後継者がいない。	② 子どもが懐いているスタッフがなくなる可能性もある。		③ 制度が変わると子どもは戸惑うかもしれない。
好意的な意見	懸念									
① 将来的に実行委員会だけで運営していくのは難しいのでやむを得ない。	① 委託になると会社の指揮命令系統に組み込まれ、労働環境がどう変わるのか不安。									
② 体力的に厳しくなってきたが、後継者がいない。	② 子どもが懐いているスタッフがなくなる可能性もある。									
	③ 制度が変わると子どもは戸惑うかもしれない。									

3 契約方法（案）

(1) 指定管理との同時公募について

法律相談を行った結果、学童保育室の指定管理の募集は、学童保育条例に基づく業務を募集するものである。放課後子ども教室の業務が規定されていないことから、同時に募集することは難しいと弁護士から言われている。

(2) 放課後子ども教室単独での委託

学童保育室と同時に募集をかけるのではなく、放課後子ども教室単独で委託を検討したい。

あわせて、参加児童の利便性や運営の効率性から学童保育事業者と同一事業者に随意委託をかけられないか、検討していきたい。

現状

学童保育室	放課後子ども教室
指定管理者（A）	実行委員会

案

学童保育室	放課後子ども教室
指定管理者（A）	委託業者（A）

4 スケジュール（予定）

- 令和7年 1～2月 仕様書（案）を事業者へ提示し、委託について事業者ヒアリング
事業者ヒアリングを踏まえて、再度委託の概要について実行委員会にヒアリング
- 3月 民間事業者への委託の検討状況について、運営委員会へ報告
- 6月 仕様書（案）を対象校実行委員会へ提示